

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200521		
法人名	社会福祉法人 むべの里		
事業所名	グループホーム芳玉園		
所在地	山口県宇部市大字東須恵丸田3454-2		
自己評価作成日	平成29年9月26日	評価結果市町受理日	平成30年2月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の希望を把握し、御家族の協力のもとセンター方式を利用したり、担当制を活用したりして、個人の思いを理解するように努めている。お地藏様参り、体操、掃除など毎日のペースを大切にした支援に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者や家族の思い、要望を大切にしたい支援に取り組んでおられます。入居時のセンター方式のシート(基本情報や暮らしの情報)を活用しておられる他、日々の関わりの中で利用者の発した言葉や表情を記録されるとともに、年2回、利用者へ6項目のアンケートを実施されて、思いや意向の把握に努めておられます。毎日面会に来られる家族の気づきや要望を大切にされ、食事や排泄時の世話などのケアの一部を担ってもらっておられます。「接遇指針」と「働き方の指針」の学習を日々深められ、職員は毎日唱和して確認され、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応をしておられます。職員が笑顔でなければ利用者も笑顔になれないとの思いから、介護支援の6つのテーマの一つに「笑顔」を掲げて利用者へ接しておられます。食事は、利用者が食べやすいように形態の工夫をされ、温かい食事は温かく、盛り付けや食器の工夫をされています。月2回、併設のデイサービスセンターでの手づくりの昼食づくりや手づくりおやつづくりに利用者も参加されて、交流しながら食事づくりを楽しめるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「思いやり、目配り、気配りに心掛けます」とホーム独自の理念を作り、職員全員でその理念を共有して実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、介護目標とともに事業所内に掲示している。毎日、介護職員心得5か条と自立支援介護の6つのテーマを合わせて、ミーティング時に唱和して共有し、利用者が元気に楽しくしているか、家族の希望に添えているかを話し合い、理念を確認して、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の日舞、地域交流会での太鼓の演奏や合唱、フラダンスなどで地域の方と触れ合ったり、近所の方から花をいただいたりしている。又、毎月1回のふれあい市場に参加したり、毎週月曜日に移動パン屋さん、毎週火曜日にヤクルト屋さん、月2回の移動魚屋さん、2ヶ月に1回の散髪のボランティアさんに入っただき地域の方と交流している。	自治会に加入し、市広報や回覧から地域行事を把握している。職員は、毎週、最寄りの駅の清掃を自主的に行っている。利用者は併設のデイサービスセンターが実施している月1回の地域交流会に参加して、デイサービスセンターの利用者やボランティア(日本舞踊、和太鼓、フラダンス、餅つきなど)で来訪している人と交流している。デイサービスセンターの夏祭りに、利用者と職員が一緒に参加して、地域から参加している高齢者と一緒にお菓子釣りや射的、手づくり料理を楽しんでいる他、月2、3回はデイサービスセンターの利用者と一緒に昼食づくりをして交流している。利用者は、月1回開催しているふれあい市場で花や野菜、魚等の買物を楽しんでいる。地域の小学生がミニ門松を持参して来訪したり、小学校教職員の来訪がある他、散歩時には近所の人と挨拶を交わし、野菜や花の差し入れがあるなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人主催の講演会、運営推進会議を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の意義は理解しているが、評価を活かしての目標が継続しきれていない。	管理者は、前年度の自己評価及び外部評価結果を基に職員に意見を聞いて、一人でまとめている。前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、地域とのつきあいの工夫や運営推進会議メンバーに児童委員を加えて年6回開催し、議事録を作成しているなど、改善に取り組んでいる。	・全職員での自己評価への取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催し、気になる事等報告を必ず行い、出席者のご意見を聞きながらサービスの質の向上を目指している。	新たに児童委員を加えて、会議を年6回開催している。利用者の状況や活動報告、行事予定、事故報告、自己評価及び外部評価結果、避難訓練等について報告した後、話し合いをしている。徘徊による事故防止の対応や水害訓練の取組み、子ども110番の取組み、起床時の不穏状態改善のために家族の写真を居室の壁面に貼ることで落ち着いたことなどを話し合い、そこでの意見をサービス向上にいかしている。避難訓練と同日に開催するなどの工夫をしたことから、避難訓練に運営推進会議メンバーの参加を得ている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者総合支援課とは運営推進会議を通して意見やアドバイスをいただき、協力関係を築いている。	市担当者とは運営推進会議時の他、電話や直接出向いて情報交換や事例相談、運営上の疑義を相談し、助言を得ているなど協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成しており、身体拘束のないケアに努めている。又、定期会議の中でも理解を求めている。又、全職会議の中でも注意喚起がされている。	「身体拘束に関するマニュアル」と「虐待防止手順書」を基に実施している内部研修で学んでいる他、自覚のない身体拘束にも気づくようにアンケートを実施し、職員は、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。事業所の前が線路であり、事故防止の観点から、現在、玄関に鍵をかけているが、外出したい利用者には一緒に散歩をしたり、ゴミ出しに一緒に出かけるなどで対応をし、鍵をかけない工夫を検討しているなど、利用者に閉塞感を感じさせないケアに努めている。スピーチロックについては、管理者が指導し、職員間でもお互いに注意し合っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回本部が外部から講師を呼んで勉強会を行っている。又、会議でも話し合いを行い、防止に努めている。又、職員で研修を行ったり、外部研修にも参加して防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見制度を利用されている方がおられた為、職員全体が理解している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、改定時には重要事項説明書を読み上げ、説明を行いわからない所は何度でも聞いていただき理解・納得をして頂く様にしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に意見や要望をうかがったり、玄関口に苦情受付箱を設置するなど、気軽に意見が引き出せるように工夫している。重要事項説明書には苦情申立窓口、担当者、外部機関が表示されホーム内には第三者委員会名簿が表示されている。	苦情相談窓口及び担当者、第三者委員、外部機関を明示し、処理手続きを定めて契約時に本人、家族に説明をしている。家族からは、面会時や運営推進会議時、年1回の家族交流会、電話等で意見や要望を聞いている。苦情受付箱を設置している。利用者を担当している職員から、毎月、事業所便りと一緒に、利用者の暮らしの状況を知らせている他、毎日面会のある家族の気づきを大切にするなど、家族からの意見が出しやすいように取り組んでいる。意見や要望は苦情受付書やケース記録、連絡帳等に記録して職員間で共有している。家族からの要望で、食事や排泄の世話等ケアの一部を担ってもらっているなど、運営に反映させている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期会議やカンファレンス等において職員から意見を聞く機会を設けている。必要に応じて、法人本部に相談し運営にあたっている。	管理者は月1回のグループホーム会議や毎日のミーティング時に職員からの意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中で、いつでも気軽に気づきや要望が言えるように配慮している。職員からの意見や提案はグループホーム会議やミーティング時に話し合い、高額な費用がいる場合や法律に関連する内容は本部へ上申するシステムとなっている。浴室の改装や照度を上げるための電球の交換、入浴介助のためのシャワーチェアへの購入、体調不良による勤務体制の変更、勤務時間と業務分担等の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、代表者会議が実施されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時意見を出せるように努めている。研修もその都度職員に案内の声かけをしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて、勤務調整を行って受講の機会を提供している。受講後は「職員研修記録」を提出し、月1回のグループホーム会議の中で伝達し、重要な資料は配布するとともにいつでも閲覧できるようにして全員が共有している。法人研修は、今年度から3ヶ月に亘って、職員全員を対象に理念についてや学ぶということ、やる気について実施し、職員全員が受講している。法人内のグループホーム合同で年4回、計画的に認知症の理解、ひもときシート、虐待防止、グリーフケアなどの研修を実施し、勤務に支障のない職員は全員受講している。内部研修は、月1回のグループホーム会議の中で管理者が講師となって、接遇指針や働き方の指針、時宜に応じた課題について実施している。新人研修は法人の全職員を対象とした研修を受講した後、日常業務の中で管理者や先輩職員から指導を受けて働きながら学べるように支援している。	・計画的な内部研修の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と合同で講演会に参加したり、5グループホームで文化交流会を行ったりしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当職員を決め、相手をより理解するように努め、御本人の不安や希望などを見逃さないようにしている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式を記入していただき、信頼関係に努めている。又、御家族の希望、要望に応える為にも出来る限りの相談に対応している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族の思いに気づき、意向に沿った支援が行えるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に寄り添いながら役割を持っていただき、生き活きと生活していただくよう努めている。家事は声かけし一緒に行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の日常の様子や変化、ご要望を報告することで御本人に関する情報を共有し共によりよい支援を行っていただける関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や御親戚及び御友人の面会を受け入れ居室で交流していただいている。又外出や外泊などの機会をもたれるよう働きかけしている。	孫やひ孫を連れての家族の面会や兄弟、親戚の人、友人、近所の人の来訪がある他、電話や手紙、年賀状、暑中見舞い状での交流を支援している。馴染みの美容院の利用やスーパーマーケットに買い物に行ったり、家族の協力を得て法事への出席や墓参、外出、外泊、外食等、馴染みの人や場所との関係が途切れないあいに支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように席替えをしたり、利用者様同士の会話が増えるよう関係作りに心掛けています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば、遠慮なく相談して頂くよう声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用したり、アンケート記入等思いの把握に努めている。	入居時のセンター方式のシート(家族に区入してもらった基本情報や暮らし方の状報)を活用している他、日々の関わりの中での利用者の発した言葉や表情、状況をケース記録に記録して把握するとともに、年2回、利用者に食べたいもの、会いたい人、行きたい所、今幸せかなど、6項目のアンケートを実施して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートや看護サマリー、御家族の意向などの職員全員が共有している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	精神状態や身体状態を毎日チェックして把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者や担当職員が、面会時に意向の確認を行っている。3ヶ月に1回を目安に開催している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって、月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族、主治医、看護師の意見を参考にして話し合い、職員全員で介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、3か月毎に見直しをしている他、利用者の状況や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカンファレンスは通常3ヶ月ごとであるが、利用者様の状態に応じて不定期に見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの暮らしの実現に向けて、可能な限り個別の生活習慣が継続できるようケアに当たっている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを受け入れ、安全で心豊かな生活を楽しめるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科のかかりつけ医は御本人・御家族が納得の上、往診を受けている。又、ご要望に応じて個別の受診にも繋げている。 必要があれば、通院の支援も行っている。	本人や家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回、訪問診療がある。歯科は月1回、泌尿器科は月1回、皮膚科は3ヶ月毎、耳鼻科は年1回の往診がある。眼科受診は家族の協力を得て受診している。受診結果はケース記録や連絡帳に記録し、家族には電話や面会時に伝えて職員と家族が共有している。休日や夜間の緊急時には法人の看護師や協力医療機関と連携して、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に2回法人本部より看護師が訪問し、健康チェックを実施している。個々の利用者様の健康状態を報告し、相談できる態勢である。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は担当看護師や地域連携室との連絡を密に行い、病状の把握に努め退院の時期について話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する同意書を作成し、契約時に説明、同意を得ている。医療機関との連携で看取りに取り組んでいる。	重要事項説明書に明記している「重度化した場合における対応に係る指針」を基に、事業所のできる対応について家族に説明し、同意書を交わしている。重度化した場合には、早い段階から利用者や家族の意向を踏まえた上で主治医と相談し、他施設や医療機関への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットの活用や、マニュアルを随時取り出せるようにしている。	事例が生じた場合は、事故報告書、ヒヤリハット報告書に発見者が状況や対応、予防策を記録して回覧して周知し、月1回のグループホーム会議で検討して、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。「事故発生時対応マニュアル」を基に「ヒヤリハット報告書」を活用して事故発生時に備えようと職員から意見が上がっているが、定期的な訓練の実施に結びつかず、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を見につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て運営推進会議を兼ね、デイサービスと一緒に避難訓練を行った。しかし、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	消防署の協力を得て年2回、併設施設と合同で、昼夜の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を利用者、運営推進会議メンバーの参加を得て実施している。11月には風水害を想定した訓練を予定しているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。非常用食品は法人で備蓄している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけを行っている。	職員は「働き方の指針・接遇指針」を基に、毎日唱和し、内部研修で学んでいる他、管理者からの指導を通して学び、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人情報の取り扱いには留意し、守秘義務は遵守している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを表出できるように対応し、御本人のペースに合わせた見守りの中での支援に心がけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく、利用者様一人ひとりの馴染みの暮らしに合わせた支援をするように努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の好みを尊重し季節、時、時間、目的にふさわしい衣服の選択がいただけるよう見守りや言葉かけを行っている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は朝食・昼食・夕食を法人からの配食で賄っていて、利用者様と一緒に盛り付けや配膳などの準備・後片付けをしている。 また、DSとの昼食作りや外食では利用者様の好みを尊重した献立を取り入れて楽しみな時間になる様に支援している。	食事は三食とも法人の配食を利用し、食べやすい形態や食器、盛り付けの工夫をして支援している。ご飯は事業所で炊き、併設のデイサービスセンターの月2回の昼食づくり、月2回のおやつづくりに利用者は参加している。利用者は米を研ぐ、野菜を切る、盛り付け、配膳、食器を洗う、お盆を拭く、テーブルを拭く、箸を袋に入れる、食事の挨拶、後片付けなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで食材や洋服の話をしながら一緒に楽しく食べている。月2回の刺身、月1回の移動パン屋でのパンの購入、年2回の外食、ケーキのつく誕生日食、季節行事食(おせち料理、年越しそば、餅つき、ソーメン流し、恵方巻、赤飯)、家族との外食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量をチェックし、利用者様一人ひとりの状態に応じた必要量が摂取できるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者様一人ひとりに応じた口腔ケアを実施している。義歯は毎日消毒を行い、夜間保管をしている。 月1回、歯科往診を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し利用者様一人ひとりに応じた声かけや誘導で排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を参考にして排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した一人ひとりに応じた言葉かけや対応、誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体質も考慮し、飲食物での工夫や運動に努めている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日可能で、一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。ご希望があれば、時間帯の調整は可能としている。	入浴は毎日、13時から16時までの間可能で、湯加減や順番、入浴剤の使用、季節の柚子湯等、利用者の希望に添って、ゆったりとくつろいだ入浴になるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで入浴時間を変えたり、職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、シャワーチェアの利用等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人ひとりの睡眠パターンを大切にしながら就寝から起床までを見守っている。日中でも自由に昼寝や休息がとれるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などを理解し、症状の変化に対応できるよう心がけている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式利用やアンケート記入等思いの把握に努め、楽しみごとの支援にと努めている。	掃除(箒で掃く、モップで拭く、掃除機を使う)、カーテンの開閉、洗濯物干し、洗濯物たため、洗濯物を居室に持ち帰る、シーツ交換、枕カバー交換、新聞を取り込む、花瓶の水を換える、雑巾を縫う、繕いもの、米を研ぐ、野菜を切る、盛り付ける、箸を袋に入れる、食事の挨拶、配膳、下膳、食器を洗う、体操の号令をかける、月毎のカレンダーづくり、季節の壁面画づくり、テレビやDVDの鑑賞、雑誌や本(皇室アルバム、犬、猫の本)を読む、習字、ぬり絵、絵を描く、手芸、刺繍、歌を歌う、トランプ、かるた、パズル、計算、漢字、諺遊び、お手玉、ボール遊び、ラジオ体操、体操の号令、嚙下体操、365歩のマーチ、きよしのズンドコ節、移動パン屋でパンの購入、お地蔵様参り、ふれあい市場での買物、外出、一泊旅行等、活躍できる場面づくりや楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事としての外出(DSに動ける方のみ一緒に参加のお願いをしている。)の他は、日々の買い物や散歩、ゴミ捨て、外食の際のドライブなどが主な外出支援となっている。	周辺の散歩や買物、馴染みの美容院の利用、ふれあい市場、お地蔵様参り、ゴミ出しに職員と一緒に出かける、季節の花見(桜、バラ、紫陽花)、ドライブ(きららの海岸、竜王山)、初詣、園芸教室、熊本一泊旅行、外食に出かけている他、家族の協力を得て法事へ出席、墓参、外出、外食、外泊など、利用者一人ひとりの希望に応じて戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者様には、一緒に行って買い物での支払いをお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望により電話の取次ぎや暑中見舞い、年賀状などの支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月のカレンダー作りや壁画での季節感を把握して頂き、室温に気を付けたり、心地良い音楽を流して居心地良く過ごせるように工夫している。	リビングは手元が見えるように照明を工夫して明るい。利用者の制作した紙細工の大きな壁面飾りは玄関の生花とともに季節を感じることができる。中央にあるキッチンからはご飯を炊く匂いや配膳の音がして生活感を感じることができる。楽しみごとに使用する物品は、利用者がいつでも取り出せるようにして配慮している。温度、湿度、換気、照度に配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座っての会話やテレビ視聴等思い思いに過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた簞笥や、家族写真、テレビなどを置いて居心地良く過ごせるようにしている。	簞笥や鏡台、パイプハンガー、テレビ、時計、温湿度計、雑誌、会話のできるぬいぐるみ、人形、日用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込み、カレンダーや家族写真、誕生日の祝色紙、自作品を飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った空間作りを心掛け、利用者様が安全に移動できるようにその都度模様替えの検討を行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム芳玉園

作成日：平成 30 年 2 月 19 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につける為の応急手当や、初期対応の定期的な訓練の実施ができていない。	職員全員が緊急時の初期対応を身に付ける。	応急手当や初期対応が出来るように看護師による研修を実施する。	1年
2	14	計画的な内部研修の実施ができていない。	年間計画を立て、内部研修を行う。	職員がどんな勉強会をしたらレベルアップにつながるか全職員で検討し、年間計画を立てて実施する。 4月と11月に虐待防止研修を行い、10月は感染症研修を入れるようにする。	1年
3	36	地域との協力体制の構築ができていない。	地域の皆様と顔馴染みになれるようにする。	避難訓練の際に、近隣住民に対しても参加を呼びかける。 年に1回グループホーム独自でお祭り等行い、地域の皆様に参加して頂く。	1年
4	4	全職員での自己評価への取り組みが出来ていない。	職員全員で自己評価に取り組む。	自己評価の重要性についての研修会を開催し、全職員に自己評価をしてもらう。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。